

平成28年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	わかやまけんりっひだかこうとうがっこう				②所在都道府県	和歌山県
28～32	①学校名	和歌山県立日高高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	附属中学校	200名
普通科	160	158	158		476	高等学校	708名 合計 908名
⑥研究開発構想名	翔べ 日高から 世界へ ～地方を創生するグローバルリーダーの育成～						
⑦研究開発の概要	地方の過疎化や少子高齢化、経済の減退という深刻な課題の解決を目指し、文化・移民・産業・防災をテーマとして課題研究を行う。また、生徒間の国際交流事業を実施し、国内外の高校生と問題点の共有、発表、討論を行う。これらの研究活動により、次代を担うグローバルリーダーを育成するためのカリキュラム開発を行う。						
⑧研究開発の内容等	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本事業は「地方創生」をキーワードとして、地方に包含する様々な課題、想定外や未知の課題に対し、グローバルな視点から多角的かつ多面的に課題解決を探ろうとする能力を育成する。また、生徒が「地方創生」を具体的に模索することを通して、その解決策が1つに定まらない問題に対し、自ら解を見いだしていく思考力・判断力・表現力・創造力等を身につけさせる。さらに、「地方創生」のための具体的なデザインや政策等を国内外に提言することで発信力や他者と協働し、他者を巻き込んでいく力を育成し、最終的には地方の課題解決にとどまらず、世界的な課題の解決を図るグローバルリーダーとしての人材の育成を目指す。同時に、アクティブ・ラーニングなどの生徒が主体的・能動的・協働的に学習するための指導内容及び指導方法を教員間で共有し、実践する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本校はこれまで、地方の進学校として、周囲からも一定の高い評価を受け、同時に期待もされている。しかしながら、本県においては若者の県外への流出率は高く、その現状は大学入学時及び大学卒業時の若い世代に集中しており、本校においても例外ではない。本研究開発は「地方創生」の一環として、地方への新しい人の流れをつくり、地方の未来を切り拓く、真のグローバルリーダーとして活躍する人材育成を図るため、以下の研究仮説を立て、取り組むこととした。</p> <p>【仮説1】</p> <p>本事業により、生徒が日高地方の伝統文化や産業、防災等を主体的かつ能動的に学ぶことにより、地方が抱える様々な課題に対して問題意識を抱くことができる。</p> <p>【仮説2】</p> <p>本事業により、生徒が日高地方の伝統文化や産業、防災等を主体的かつ能動的に学ぶことにより、県外に流出することなくグローバルな視点で地域の発展に寄与しようとする態度を育成できる。</p> <p>【仮説3】</p> <p>本事業により、地方の課題解決を図り、国内外の高校生との協働学習を通してグローバルスキル（本校独自の「付きたい力」8項目①「やる気力」②「想像力」③「コミュニケーション力」④「グローバル力」⑤「協働力」⑥「マネジメント力」⑦「発信力」⑧「参加・参画力」）を備えた生徒を育成できる。</p> <p>【仮説4】</p> <p>本事業により、海外の高校生との交流する機会を増やし、意見交換や討論、文化交流を行うことにより、英語の総合的な運用力を育成できる。</p>						
	⑧-1全体						

	<p><b>成果の普及</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地方創生グローバルサミット」の開催に向け、本研究について国内外の同様の課題を抱える全国の地方に発信し、普及する。</li> <li>・生徒が地元新聞社等に自らの体験や学修の成果について公開・発信する。</li> <li>・成果物等を作成し広く配付するとともにSGHホームページにおいて積極的に掲載する。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -2 課題研究</p>	<p><b>(1) 課題研究内容</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(a) 地域文化学修「ふるさとの文化に学ぶ」  (b) 移民の歴史学修「ふるさとの先人に学ぶ」  (c) 地域産業学修「ふるさとの産業に学ぶ」  (d) 地域防災学修「ふるさとの防災に学ぶ」  (e) JICA研修  (f) -①『地方創生グローバルサミット』（県内高校生）  (f) -②『地方創生グローバルサミット』（県外高校生）  (f) -③『地方創生グローバルサミット』（海外高校生）  (g) 英語による論文作成と「アクションプラン」の発信  (h) 研究発表会</p> </div> <p><b>(2) 実施方法・検証評価</b></p> <p><b>【実施方法】</b>  1 学年においては普通科生徒全員が「SG課題研究Ⅰ『日高から世界を見つめよう日高探究学修①』」に取り組み、上記のSGHプログラムを「総合的な学習の時間」の中で扱うこととする。2 学年・3 学年においては、1 学年で学修した(a)～(d)のテーマの中から1つのテーマを選択し、課題を発見し、その課題を解決するために探究の深化を図る。具体的には、国内外の高校生との協働学修を中心に据え、地方を活性化し、創生していくためのワークショップや意見交換会等（「地方創生グローバルサミット」－国内研修・海外研修）を実施し、その成果を『和歌山発－地方創生課題解決モデル』としてまとめ、行政機関等へ政策提言する。尚、「地方創生グローバルサミット」の各テーマ別海外フィールドワークの行き先についてはカナダ（「移民の歴史」）、インドネシア（「地域防災」）、ミャンマー（「地域産業」）とし、協働的な探究を図る機会とする。</p> <p><b>【検証評価】</b>  検証評価方法については、質問紙調査、高校生意識調査、作文、観察、レポート、学力実態調査、意見交換会、研究発表会、進路状況など多様な方法により課題研究の実施前後やSGH対象生徒と一般生徒との比較等を通じて評価することとし、さらに学校評議員や運営指導委員会、大学関係者、地方自治体や地元企業等の関係諸機関からの外部評価を積極的に取り入れることとする。</p> <p><b>(3) 必要となる教育課程の特例等</b>  特になし</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">⑧ -3 上記以外</p>	<p><b>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日高グローバルプロジェクトチーム」の活動</li> <li>・「高校生英語ディベート大会」「英語スピーチ大会」の取組</li> </ul> <p><b>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</b>  特になし</p> <p><b>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修や国際交流の推進</li> <li>・「OECDイノベーションスクール2030」への参画</li> <li>・「アジア・オセアニア高校生フォーラム」の取組</li> </ul>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>本校は、スーパーサイエンスハイスクールに指定されており、既に理数系分野においては大学や研究機関とも連携しながら先進的な課題研究に取り組んでいる。こうしたSSHの取組で培われたノウハウとSGHプログラムを融合させることにより、より質の高い課題研究活動が期待される。</p>